

磐田市の特性から

- 都市構造・人口分布は合併前の状態を保持している
- 都市の中心性がなく全体的に平坦な地形を持っている
- 人口は微減傾向にあり、少子高齢化は進行しつつある
- 財政予測からは公共施設の統廃合が必要とされている

平坦な土地と中心志向性がないことは、サービス圏域を設定しやすい条件です。現状の人口分布などから十分な把握が必要です。また、施設の計画にあたっては、施設機能の十分な把握とLCCに配慮したコストバランスの良い計画が必要とされています。

図書館サービスの現状から

- 合併前の図書館が適切なサービス網を形成している
- 児童やYAに対するサービスは各館共に充実
- サービス圏域は中央と豊田が近接し重なっている
- 教育方針に沿った読書活動充実にきめ細かく協力
- 学校図書館とも定期的な交流を持ち団体貸出も行う
- サービス指標の比較では、人口当りの貸出冊数など標準以上の実績があるが、資料費が少なく資料の魅力が落ちており、業績も低下傾向にある
- 有能な司書が育っており業績を下支えしている

サービス網とサービス内容は、ともに比較的高い水準を保っています。教育関係との連携も、良好に進んでいます。しかし、資料費が低く、資料の鮮度が落ち続けているために、優秀な司書の努力にもかかわらず基礎体力がそがれ、利用の水準には陰りが見え始めています。
基礎的なテコ入れが必要です。

豊田図書館の現状から

- サービス圏域が中央と重なりシェアを奪われている
- アミューズ豊田の各施設との複合文化拠点をつくり単独館であるため、集会・展示などの付属施設も充実しており、実績は伸びていないが来館者は多い
- 開館当初に家具配置などに図書館専門家が加わらず単調なレイアウトになり利用の足を引っ張っている
- 児童のためのコーナーは資料が置かれているだけ

多用途に耐える単独館ですが、中央図書館との距離が近いために、利用者のシェアを奪われています。家具デザインや配置に専門性がなく、児童のための明快なゾーンが形成されていないなど、ハードの不備が利用の制限になっています。大胆な改造が必要とされる施設です。

幼児対象子育て支援サービスの現状から

- 人口微減から磐田市は子育て支援に力を入れている
- 妊娠から出産・子育てに至るまできめ細やかなサービス体系が作られて支援体制が整っている
- 保育園・幼稚園のほかに子育て支援センターを各所に配置して、子育て世代がもれなくサービスを受けられる施設整備と人的支援・助成などが揃っている
- 子育て支援センターは、子どもの遊びの場だけでなく相談機能も持って、相談件数も増加傾向にある
- 支援センターを利用できない人もいる

数多くの子育て支援サービスの中で支援センターは一定以上の成果を上げていますが、絵本などの資料や設備などはまだ満足のものではありません。また利用者が固定化しつつあり、既存のセンターを利用しづらく感じている人もいます。
もっと気軽に自然に利用でき、そのまま相談も可能な施設があれば、利用はもっと広がるでしょう。

就学児童生徒への支援サービスの現状から

- 小中一貫教育・高校の充足など教育環境整備が進行
- 放課後児童クラブも利用が増加し充実している
- SSWも配置され、最低限のフォロー体制は確保
- 児童生徒の読書活動推進に力を入れている。学びの基礎を読書に置き、図書館への期待も向上している
- 学生の学び・交流の場として、駅前の施設に学習交流センターも設置され、学生たちで賑わっている

就学すると学校以外の活動の場は極端に少なくなり、支援サービスも限られてきます。学びの中心に読書を置く必要性についても理解が進むなかで、図書館などの生徒・学生の利用可能な場の確保は、これからますます重要な課題になっていきます。

子どもたちを支えるための環境と体制から

- 支援を必要とする対象を幼児から18歳までとすれば、支援体制は圧倒的に未就学児にシフトしている
- 就学した子どもたちへは、学校以外の生活の場が少なく、遊びや学びの環境が担保されていない
- 子どもが育つために必要とされる本などの資料は切れ目なく存在するのに、図書館以外の施設では子育て支援センターでも学習交流センターでも資料が貧しく、せっかくの読書機会を減している

子どもたちをひとからげに分類することはできません。同時にそれぞれの成長過程で必要とされる支援や資料は様々なはずですが、現状では必ずしも支援体制・機関・施設とそのサービス内容とはマッチしていないことがわかります。図書館は様々な活動に対して親和性の高い施設です。図書館を中核に置いて、子育てに関する支援体制を作り上げれば、スキのない子育て環境が実現します。

- 磐田市に「子ども図書館」が必要であることは以上の考察から十分に理解されます。
- 学びのベースとなる資料が切れ目なく用意された図書館に、さまざまな遊びや交流・相談・支援機能が複合されれば、子育てに必要な要素がすべて揃います。
- 既存の施設イメージではなく、「子どもたちの環境をつくる」ことをテーマに、綿密なプログラムを検討し用意していくことがこれからの課題になります。

■子育て支援サービス

●サービスの考え方

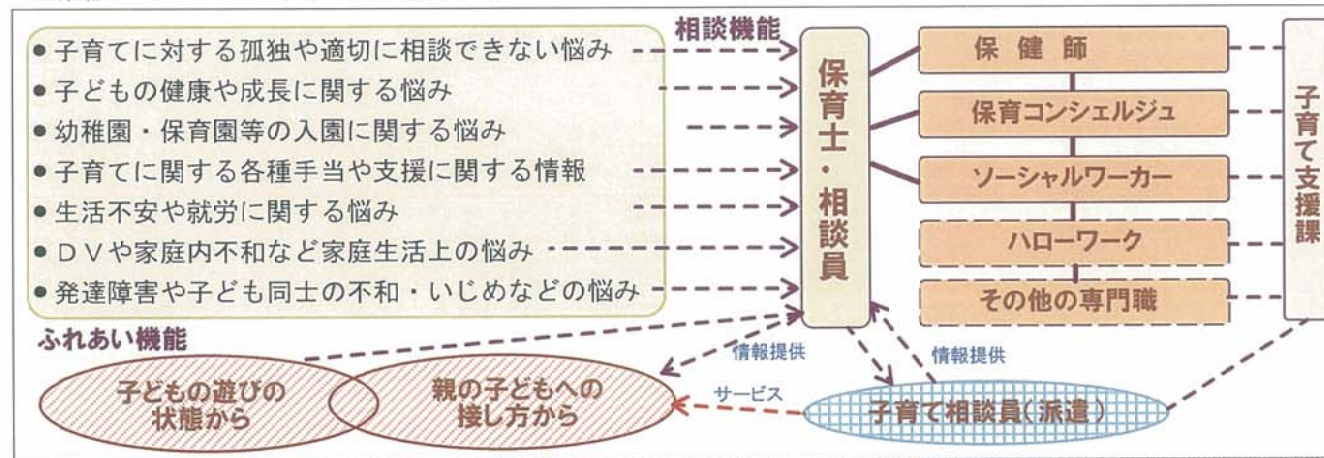
多様な子育て支援サービスの基本的な機能は取り揃え、遊びや学びを通して子どもの健全な育成を支援するとともに、保健師・保育士・ソーシャルワーカー・保育コンシェルジュなどの多様な専門スタッフを揃えて生活や子育てに関する様々な悩みごとの相談を気軽に行える場をつくる。

一般の子育て支援センターと異なり、様々なイベントも行うものの、相談業務に軸を置いた施設となるよう計画する。

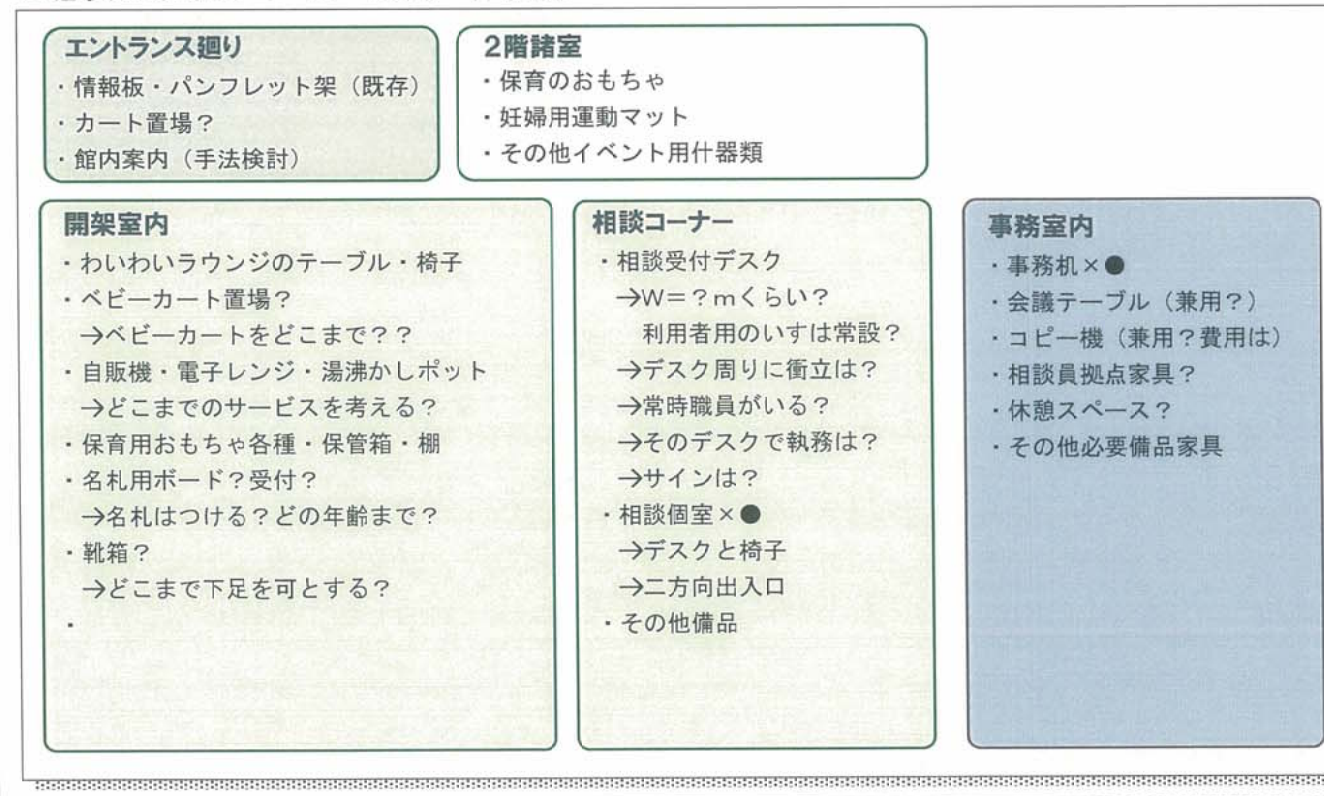
子育て世代包括支援センターのイメージ



●相談・サービス項目と支援体制



●必要となるスペース・家具・什器類

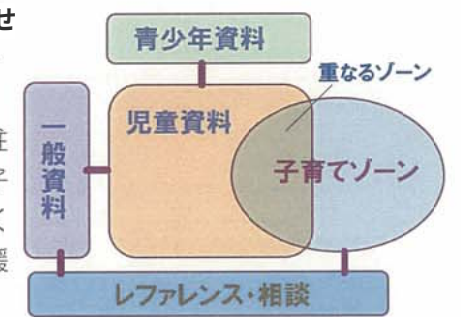


■子ども図書館サービス

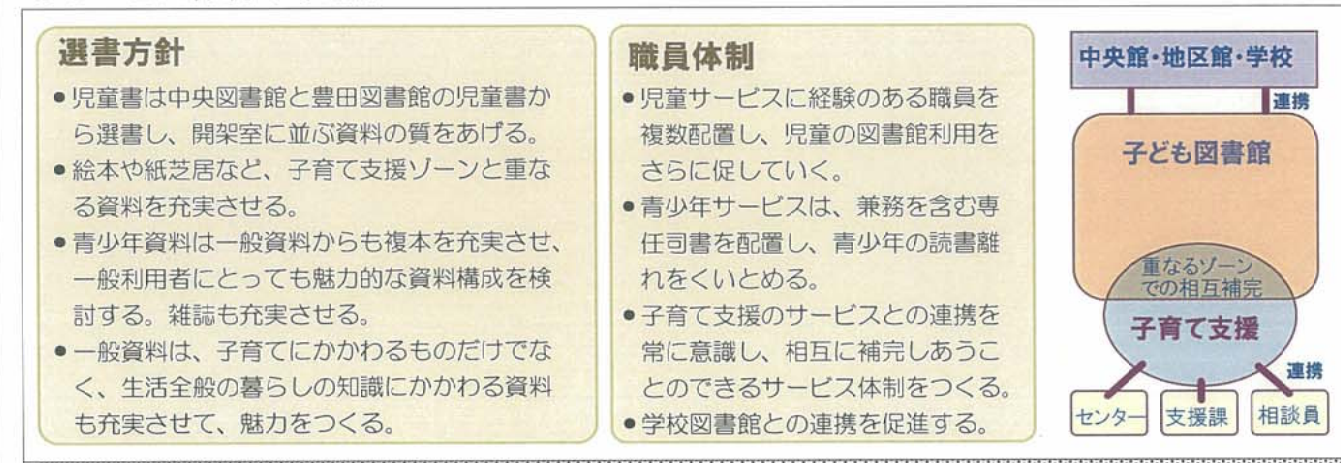
●サービスの考え方

図書館資料を子どもにシフトした蔵書構成とし、子どもの成長にあわせて資料選択ができる配架計画を行う。サービス対象は幼児から青少年・子どもに付き添う親世代を中心として選書する。

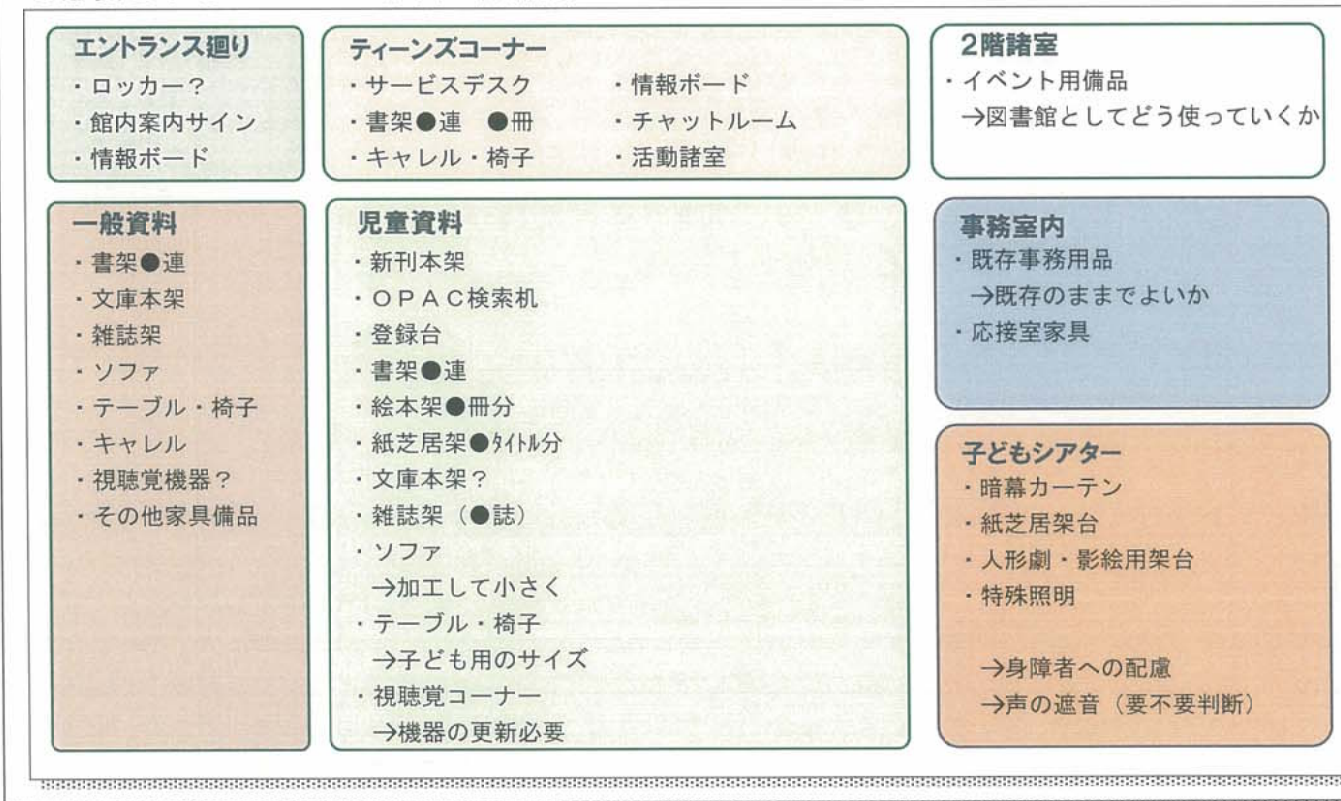
読書環境を整えて情操教育を促すことは、本来子育て支援の重要な柱であり、子育て支援の対象となる未就学児童に対する資料ゾーンは、子育て支援ゾーンと重なる形を取り、一体的なサービスが行える空間づくりを行う。また、従来の図書館慣行を超えて、静寂に対する考え方を緩やかにするとともに、一部のエリアでは飲食も可能とする。



●サービス体制の考え方



●必要となるスペース・家具・什器類



■こどものま（児童資料コーナー）

●施設のコンセプト

- 計画施設の中心的な空間。入り口から最も入りやすい位置に配置。
- サービスは乳幼児から小学校高学年程度までを対象とする。
- 資料は幼児・幼稚園年齢・小学校低学年・小学校高学年程度に分別。
- 書架はすべて低書架とし、資料をフェイスアウトできる仕掛けを施す。
- 読書席はテーブルと椅子・ソファ・スツール・ベンチ・カーペットなど様々な年齢が自由に選択できる席を用意する。
- 親子で過ごす場を想定し、幼児用資料・絵本・紙芝居などはあそびのまに隣接して設置する。
- 子どもシアターを設置して、お話会など様々な催しが可能な場を提供する。
- 少々の騒音・話し声は許容する。飲食は特定場所を除いて不可とする。

●必要となるスペース・家具・什器類

- ・低書架（棚上3段）50冊/棚換算 60連以上
→書架のサインの考え方を検討・余裕分はフェイスアウト棚とする
- ・絵本架（2段+上段はフェイスアウト）200冊/連 54連分
- ・視聴覚資料架（5段4連）100点/棚換算 2000点分
- ・雑誌架・新聞架・・・児童用雑誌誌数は？ ・サービスデスク
- ・新刊本コーナー・・・20冊程度をフェイスアウト
- ・ソファ・・・既存ソファを使用 40席
- ・テーブル・椅子・・・全体で60席程度用意 一部は学級招待用にも
- ・スツール・ベンチ・・・書架そばで気兼ね読書 読み聞かせ用
- ・検索机・・・1台 ・各種企画台・・・3点以上

児童資料の収書方針

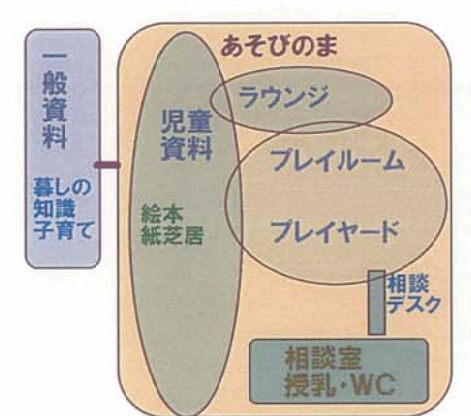
絵本	9,560	10,800
G E	4,000	5,800
赤ちゃん絵本	300	500
こどものとも年少版	1,000	1,300
こどものとも	1,200	1,500
日本絵本	500	600
外国絵本	300	700
昔話絵本	500	1,200
E	5,200	4,500
かがく絵本	1,200	1,500
その他絵本	4,000	3,000
雑誌絵本	360	500

児童書	13,360	18,100
幼年童話	400	700
昔話	100	300
44 てんたい	360	500
0～9	10,900	14,500
0 コンピュータ	100	150
1 てつがく しんりがく	120	150
2 れきし でんき	700	900
3 しやがや きょういぐ	630	800
4 かがく どうぶつ しよくぶつ	2,800	3,500
5 かいてい あいほう りょうり	830	1,100
6 きんぎょう	600	800
7 げいじゆつ しゅみ	1,380	1,500
8 こたば	310	500
9 ふんがく	3,480	5,100
全集	600	1,000
詩	1,000	1,100

■あそびのま（子育て支援サービスエリア）

●施設のコンセプト

- 既存の子育て支援センターとは異なり、図書館利用を媒介にしてこれまで様々な理由で利用できなかった親子にも利用を促す。
- 「支援センター」の遊びも充実させるが、音を出す企画は控える。
- 幅広い専門支援スタッフが控え、相談業務では中心的な施設として利用されるよう、サービス体制を整え拠点化を図る。
- 利用者は相談員も図書館員も見分けがつかないため、スタッフは図書館との相互協力を密に行い、一部の仕事はミックスさせる。
- 相談の重さや内容に応じて、相談場所はあそびのま・デスク・相談室など様々な場所を使い分けて、相談要望を満たす。
- 絵本などの資料・あそび・交流など、これまでの施設ではできなかった子育て支援の理想の形を追求する。



●必要となるスペース・家具・什器類

- ・相談デスク・・・幼稚園・保育園の入園相談や就職支援などの事務手続きも行うデスク。相談も対応。
- ・相談室・・・プライバシーを要する案件の相談を行う部屋。遮音性の高い部屋を2室。相談デスクの近くに設置。
- ・授乳室・・・哺乳瓶を洗えるお湯の出る洗面器・おむつ替え用ベッド・カーテンで仕切られるソファ3席できれば外光・外気に接することができる場所に設置。
- ・ブレイルーム・・・靴を脱いで遊ぶ清潔な場所。おもちゃ収納スペース・幼児用絵本などを設置。
- ・幼児用便所・・・親などが介護できる仕切りの低い幼児専用便器を備えた便所を設置。和便器は不可。
- ・屋外ブレイヤード・・・屋外の一部は親子が休憩できたり、中間期には子どもが遊べる場を用意。デッキ・芝など
- ・ベビーカー置場・・・ベビーカーを置いておける場を設置。3～4台あればよい。場所をはっきりさせる。

■グロウイングルーム（青少年と成人の資料コーナー）

●施設のコンセプト

- ある程度の静寂さを確保するため、こどものまから離れた位置に設置する。
- 青少年資料の多くは成人資料と重なるため、二つの資料はまとめて設置。
- 書架の高さは全体を見渡せるようH=1500以下（5段）とする。
- 読書席は基本的にキャレル（個別席）となるように配慮し多数配置する。
- 資料数は2万冊以上を確保し、資料数は少なくとも、今までの図書館開架室に匹敵するよう、充実した資料を厳選する。
- 雑誌や新聞も配架し、ソファ席も用意するなど、気兼ね読書へも配慮する。
- サービスデスクの設置は、ルームの設置場所によって検討する。
- 青少年の活動を支援するため、2階の読書室やその他のスペースの積極的な活用を検討していく。
- 室内での飲食は不可とするが、飲み物程度は許可も検討する。

●必要となるスペース・家具・什器類

- ・低書架（棚上5段）40冊/棚換算 50連
→壁付き書架は6段まで設置可能。サインを充実させる
- ・雑誌架・新聞架・・・雑誌架は既存の雑誌架を再利用する
- ・新刊本コーナー・・・既存の書架をフェイスアウト用に改造して活用
- ・ソファ・・・既存ソファを使用 5～6席
- ・テーブル・椅子・・・全体で24席程度用意 すべてキャレル方式
一部の机では電源を用意してパソコン使用可能に
- ・検索机・・・1台 ・各種企画台・・・1点以上
- ・室内のWiFi環境を整備。 ・情報ボードの設置

一般・YA資料の収書方針

部門	蔵書冊数(冊)	図解率	蔵書冊数(冊)	備考
0門	450		250	
007コンピュータ	237	1.83	237	
010読書法	165	0.44	165	※
017学校図書館	21		21	
1門	500		500	
148名づけ	100	1.67	100	
159人生訓	381	381	381	
2門	2000		1500	
291～297旅行	1994	3.4	1994	
3門	3150		2500	
320～329法律	309		309	
345税金	38	1.16	38	
366働く	189	0.79	189	
367家族	403	1.04	403	
369福祉	445	0.45	445	
370～教育	1048		1048	
379社会教育	261	1.6	261	
385結婚葬祭	180	0.46	180	
388民話	278	0.27	278	別
4門	3000		2000	
453地震学	59	0.27	59	
46医学	2152		2152	
44天文学	702		702	別
5門	3250		3000	
590～595衣	1411		1411	
596料理	1441	2.42	1441	
597生	165	4.75	165	
599育児	216	2.11	216	別
6門	900		700	
620園芸	26	0.45	26	
626野菜	154	2.05	154	
627草花	318	1.24	318	
629園	186	1.51	186	
645ペット	211	0.8		
7門	1000		1000	
754木竹工芸	265	1.04	265	
763球技	375	0.8	375	
786アウトドア	145	0.72	145	
787釣り	74	1.0	74	
785～788園藝得技	106		106	
8門	140		100	
830～890外国語	137		137	
9門	7000		6000	
914.6エッセイ	1289	0.94	1289	
910ルポ	435	0.46	435	
913.8日本文学	5197	2.18	5197	
	21,390		17,550	→

■ラウンジ（交流・休憩の場）・2階スペース

●施設のコンセプト

- 利用要望の多い展示機能は部分的にでも残しておきたい。
- 図書館内の飲食可能なスペース。畳コーナーやさまざまなテーブル・椅子などを用意し、くつろぎの場とちょっとした打ち合わせなども可能な場とする。
- 自販機や電子レンジなどを備え、弁当などの持ち込みも可能。展示機能も備えて、市民の活動拠点の場とする。
- 新聞や雑誌なども設置し、図書館の延長としてイメージできる場とする。
- 2階は集会諸室をそのままにし、学習室などは常時開放して利用を促す。飲食可能な場も設定する。

●必要となるスペース・家具・什器類

- ・テーブル・椅子・畳コーナー・ソファ
- ・流し・電子レンジ・ポット・自販機
- ・展示パネル・情報交換パネル
- ・パンフレット置場
- ・新聞雑誌などの気兼ね資料
- ・団体ロッカー（希望グループに貸出）
- ・WiFi環境

■事務スペース

●施設のコンセプト

- これまで図書館用の事務のみを行ってきた場に、新たに子育て支援スタッフが加わる。共用できるもの（コピー機・休憩スペース・作業テーブル）などは共用し、相互に情報をスムーズに交換できる場を作る。
- スタッフの増員により、ロッカー室等の拡大が必要。
- 倉庫にも書架を新設して収納規模を拡大する。

●必要となるスペース・家具・什器類

- ・基本的な家具は位置を変更して再利用
- ・図書館の整理機能を充実させるため事務室内や倉庫に新たに書架を設置する。
- ・職員12名に加えて相談員等のロッカーを増やして設置。
- ・休憩スペースを充実させ、再利用のソファなども設置する。